



スキマタイムズ



もっとお互いを理解するための場や時間を



✿ 日本自立生活センター自立支援事業所 2021年12月28日発行 第129号

旧年中は大変お世話になりました。



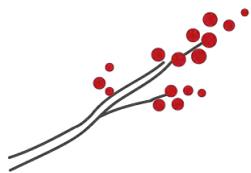
昨年は、コロナ禍に加えて、前理事長の逝去に伴う新体制への移行があるなど、自立支援事業所としていろいろ変化のある年となりました。

長年にわたり、日本自立生活センターでは、「地域の中で自立し、安心して暮らすこと」に取り組んでいます。

もちろん現場ではさまざまなことが起きています。うれしい時もあれば、つらく悲しい時もあります。利用者も介助者も、その時々ごとにいろんな気持ち、思いを抱きます。その気持ちや思いがともしんどいものにならないように、関わる人々の間で話し合いを重ねる日々を大事にしていきたいと思っています。

今年もさまざまなことが起きると思います。

でも「地域の中で安心して暮らしていけること」を皆さんと話し合い考えていきたいと思っています。



今年もどうぞよろしくお願いします。

皆様にとっても幸せな年となりますように・・・

小泉浩子



＊ 居場所づくり勉強会 第69弾 2021/11/20 ＊

「親と一緒に考える知的障害のある人の暮らし」

学習会見逃した方、もう一度見たい方、ご覧ください。

勉強会限定配信 URL

<https://youtu.be/4yKT1xwGhz0>



生きたい社会に

ALS 囁託殺人事件

④

難病の筋萎縮性側索硬化症(ALS)の女性患者(当時51歳)に頼まれ、薬物を投与して殺害したとする囁託殺人罪などで医師2人が起訴された事件は、30日で発生から2年を迎える。而被告は2021年6月、うち1人の父親を殺害した罪でも起訴された。事件が社会に投げ掛けた重い問いを、改めて考えたい。

「生きたい社会に ALS 囁託殺人事件」は随時掲載します。

障害者介助の現場に介助者や介助派遣のコーディネーターとして20年以上携わり、障害者の自立生活運動にも取り組んできた。事件による影響を聞かれるが、少なくとも私の周りでは表面上、深刻な変化はない。周りの障害のある人たちは皆に支えられ、生きることが肯定されているからだ。

事件を機に「安楽死」推進の動きが広がったといわれている。本当にそうだろうか。個人的には事件前の方が、安楽死を安直に美化する主張がされていたと感じる。今回の事件は囁託殺

「自己決定」で済ませるな

死にたい程のつらさ、苦しみも本物だったのだと思う。本人が望んだ「自己決定」だから仕方ないという声は現場の医療者・介助者は懸念している。医療者を関与させない。医師者を関与させない。だが、安楽死といえども「安楽」で済むとは限らない。医療者を関与させない。医師者を関与させない。医師者を関与させない。

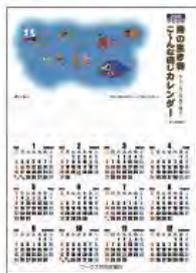


わたなべ・たく 1975年生まれ。京都大文学研究科博士前期課程修了。2000年に介助者登録。自立生活運動に取り組み、京都市の24時間介護保障などに尽力。近著に「障害者の傷、介助者の痛み」(青土社)

根強い。だが、それで済ませてもらえない。難病患者にだけ、その言い方が通用するのはおかしい。自己決定の背景をなすものを丁寧に考える必要がある。私はこの女性の支援に関わっていないが、仕事を知り得たこともある。彼女が受けていたケアの一部に要因の一つがあったかもしれないが、私の知る限りケアがずさんだったとは言えない。難病の進行と同時に複数の事業所が入って、

命に取り組んでいた。難病ばかりに目が行きがちだが、「安楽死を望む人」は「生きることを押し付けられている」といった批判が少なくない。もちろん、そんなつもりはない。だが、そう捉えられていたら、死を考えている人ほど「近寄りなくなる。どうすれば「閉ざされた自己決定」になり、生きて良かったと思ってもらえるものを提供できるのか。重い課題を考え続けた。【聞き手・千葉紀和】

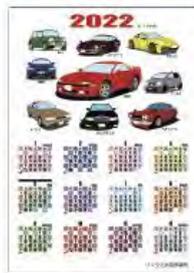
毎日新聞 2021/11/30



鈴木.ver



もん の 門野.ver



えきた.ver



松田.ver

← A2 サイズ (新聞紙1頁) 300円

他に超貴重な限定商品もあります。お問い合わせください!

詳しくは

075-682-3201 「椿森」まで <http://kyoto-j-works.com/>

2022年版 ワークスカレンダー

はがきサイズ → (お馴染みケース入り)

500円



全員参加.ver



岩本.ver



書き込み式.ver